



### 21年度コミュニティバスの乗車状況

路線	平日運行本数	1便当たりの乗車数	乗客1人にかかる費用
しづおり号	8本	2.1人	865円 ※市の実質負担額は123円
さんちゃん号	9本	2.5人	
せい太くん号	10本	5.1人	
すいせん号 うずしお号	17本	4.0人	

▲運賃の基本料金は、大人300円、中学・高校生200円、小学生以下100円となっています。すいせん号とうずしお号は、路線で共用する区間があるため同一区分としています

◀平成20年度からバスが5台体制になりました。平成22年度の乗車人数、運賃収入は見込みの数字です

### らん・らんバスの現状

現在、市内にコミュニティバスの路線が5つあり、路線に合わせて計5台のバスが平日1日あたり44便を運行しています。

市は、バスの運行を5年間の契約で委託しており、年間約5千万円の事業費で運行しています。平成21年度では、バス事業費5016万円から運賃収入1102万円、県からの補助金345万円を差し引いた市の一般財源3569万円（うち国の特別交付税2855万円、市の実質負担額714万円）で運行しています。

市は、バスの運行を5年間の契約で委託しており、年間約5千万円の事業費で運行しています。平成21年度では、バス事業費5016万円から運賃収入1102万円、県からの補助金345万円を差し引いた市の一般財源3569万円（うち国の特別交付税2855万円、市の実質負担額714万円）で運行しています。



▲中嶋市長は「乗り継ぎや最寄りの施設がどのバス停か、ひと目でわかるよう時刻表も工夫を加えていければ」と話していました

### なくてはならない生活交通

らん・らんバスの運行に携わる市役所市長公室中嶋宏昭係長は話します。「学生や自家用車を利用することができない人たちがいます。特に急速に進む高齢化で移動手段が限られる人が多くなってきたおり、日常の買い物さえしにくくバスを頼りにしている人がいます。バスがなくなると、誰かに送り迎えを頼まないと自由に外出できず、生活に支障が出ます。バスは市の重要施策。地域の人たちになくてはならない生活の交通を福祉施策として守っていかねばなりません。」

市では、国の補助金を活用して1月から75歳以上の人や障害を持つ人の運賃を無料化し、外出支援を行うようにし、高齢者の交通安全にも寄与して



# わたしたちも乗っています 地域のライフライン 人と街を結ぶ らん・らんバス

並木章さんと久枝さん（阿那賀）は毎週1回らん・らんバスを利用しています。章さんは「私たちは買い物や病院に行く時、必ずバスに乗って出かけます。バスがなければ二人とも運転免許を持っていないので、家族の助けを借りなければなりません。1月から75歳以上の高齢者の運賃がタダ（無料）になったので、さらに利用しやすくなりました」と話します。久枝さんは「知り合いもよくバスに乗りますので、よもやま話に華を咲かせ楽しい時間を過ごせます。私たちの生活にバスは欠かせません」と笑顔で話します。



### 通学はらん・らんバス

▲「バスがなければ、自転車では海辺の道や山道を通って学校へ行かなければならず、大変です」と話す高校生の菅さん（左）と杉田さん（右）

### 地域で考える公共交通

市では地域公共交通会議を開催し、バスの利便性の向上を図っています。同会議のメンバーは市民代表（自治会や婦人会、老人クラブなど）や交通事業者、国や県など27人。バスの課題や乗客のニーズを把握するため、利用状況の調査や利用者アンケートを実施し検討してきました。そして、より乗り継ぎや通学がしやすいよう、4月に運行改善を行う予定です。

### らん・らんバスの目指す先

バスの愛称には市民の身近な生活交通として笑顔をつなぐネットワーク（LAN）の役割を担い、楽しく街を走る（RUN）という意味が込められています。これからも市では、皆さんの笑顔に乗せて走れるような生活交通の充実を目指し取り組んでいきます。

### 安全第一で運転します

運転手の山崎茂さん（志知）はバスの運転に携わって約4年。山崎さんは、「お客さんの顔はよく覚えていて、誰がどの停留所に乗るかがわかります。高齢のお客さんが多いので降りる際は、慌てて怪我をしないよう声をかけるなどして気を配っています」と笑顔で話します。



▲山崎さんは「どの便が目的地まで行って、一番早く帰られるか」などを乗客とよく話し、快適な外出の手助けをしています

多くの人に利用してもらうには、課題は山積みです。利用者からバスの便が少なく、乗り継ぎが悪い、近くにバス停がないなどの意見を聞きます。限りある予算の中、5台のバスでいかに効率よく市内を運行できるか利用者のニーズにあつたものにできるか模索しています。

市では地域公共交通会議を開催し、バスの利便性の向上を図っています。同会議のメンバーは市民代表（自治会や婦人会、老人クラブなど）や交通事業者、国や県など27人。バスの課題や乗客のニーズを把握するため、利用状況の調査や利用者アンケートを実施し検討してきました。そして、より乗り継ぎや通学がしやすいよう、4月に運行改善を行う予定です。

皆さんは、市のコミュニティバス「らん・らんバス（愛称）」を利用されたことはありませんか？

現在、らん・らんバスは旧西淡町・南淡町時代から民間に委託していたコミュニティバスを引き継ぐとともに、旧緑町・三原町域にも路線を広げ、市がみなと観光バス㈱に委託し運行しています。バスは学生や自家用車などを利用することができない人たちにとって、通学や通院、買い物など日常生活を支える重要な交通手段です。しかし、自動車が多く普及する中、「乗り継ぎの待ち時間が長い」「家からバス停が遠い」という理由で、利用者が増えていないのも事実です。

より身近な生活交通として多くの人に利用されるよう、市では平成19年5月に地域公共交通会議を設立し、バスの運行改善について毎年検討しています。そして、料金改定や運行経路、時刻などの見直しを行い、乗り継ぎの待ち時間を短縮させたり、通学しやすい便を設けたり、ショッピングセンターにバス停を設置するなど、利便性の向上を図ってきました。また、今年1月から75歳以上の人や障害を持つ人への福祉施策として運賃を無料化し、より利用しやすくなりました。しかし、今後も対処すべき課題は多く、さらに運行改善に向けた取り組みをしています。

この特集では、私たちの暮らしを支えるバスの課題や利用状況、交通体系について取材しました。